

■ 特定荷主

エネルギー原単位は前年度比12%減少しました。

荒川化学は、「省エネ法」の特定荷主に該当しており、輸送によるエネルギー消費の減少に努め、実績および次年度の計画を報告するよう定められています。

輸送の燃費向上や、製品の生産をお客様に近い工場に移して輸送距離を短縮するなどの対策に取り組み、単位輸送量当たりのエネルギー消費量を示す「エネルギー原単位」は前年比削減しました。しかし、2007年度比で26%増加し、目標(4%減少)を達成できませんでした。

これは、2007年度比で、販売量が回復しないことや、特殊な配送(冷凍便など)の増加、積載率の悪化などが要因です。

● 今後の取り組み

2012年度は、輸送の効率化、エコドライブ[※]などで省エネルギーを推進します。

※エコドライブ:急加速、急減速などをせず、極力燃料を節約する運転方法。アイドリングストップ、エコタイヤなど

輸送に関わるエネルギー原単位



■ 大気汚染防止

ボイラ燃料のガス化を推進しました。

SOx・NOx排出量を減少させる対策として、ボイラ燃料のガス化などを推進し、法規制値に比べ十分低い値を維持しています。2011年度は大阪工場のボイラ燃料の都市ガス化を実施しました。

VOC(揮発性有機化合物)の排出削減や近隣住民への臭気対策として、高性能な脱臭装置を設置しており、2011年度は研究工場の脱臭装置の処理量アップを推進しました。

● 今後の取り組み

今後も法規制値を遵守していきます。

また、VOC(揮発性有機化合物)の排出削減や臭気対策として、高性能な脱臭装置の増設をさらに進めていきます。

SOx・NOx排出量の推移



■ 水質汚濁防止

排水処理の管理に努め、法規制値を遵守しています。

荒川化学グループの工場では水溶性の製品を多く製造しており、それらの製造の際に製造設備やタンクローリーから排出する洗浄水は環境への負荷が大きいため、その処理は重要です。

2011年度においても、排水処理の管理に努めた結果、懸濁物質(SS)、化学的酸素要求量(COD)などの規制値を十分クリアする結果となりました。

● 今後の取り組み

排水処理設備の維持に努め、法規制値の遵守を継続していきます。また、2012年度は改正水濁法が施行され、適切に対応していきます。

COD・SS負荷量の推移

